

令和5年度学校経営計画に対する中間評価報告書

| 重点目標 | 具体的取組 | 実施状況の達成度判断基準 | 備考 | 7月結果 | 分析(成果と課題)及び今後の取組 |
|--|---|---|-----------------------------------|--------------------------|---|
| 1 生徒指導の方針・基準に一貫性を持ち、時代の変化に対応しつつも毅然とした指導で、基本的な生活習慣の定着と規範意識の高揚を図る。 | ① 挨拶を含めた所作の指導を、S・T・授業・休み時間、「遅刻ゼロ・鶴高挨拶運動」で指導する。 | 学校に関係する方々にはもちろん、生徒間の挨拶も積極的にできる生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上85%未満 D 80%未満 | 7月、12月に調査する。 (生徒アンケート) | 90.4% 判定A | 自らすすんでよく挨拶している生徒は全体で90.4%となっており、昨年同期と比較して2.8%減少した。ただし、学年別にみると現3年生、現2年生において昨年12月の調査に比べ数値が改善しており、上級生になるにつれて挨拶が定着するものと思われる。 それに比べて1年生の数値がよくないが、教職員が積極的に挨拶をしていくとともに、「遅刻ゼロ挨拶運動」等の機会を利用し、挨拶の向上に努めたい。 |
| | ② 日常の観察の中で生徒の状況とそれに対する指導方針を共有し、全教職員が積極的に指導にあたる。 | 服装容儀等について積極的に声かけをしている教職員が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満 | 7月、12月に調査する。 (教職員アンケート) | 81.3% 判定D | 服装容儀や規範意識を高めるため積極的に声かけを行っている教職員は81.3%にとどまった。昨今、社会的に校則に対する関心が高まる中、本校においても校則見直しに関する動きがあり、教職員の中で指導に対する迷いがあるものと思われる。 一方、服装容儀に対して、89.0%の保護者、87.6%の生徒が「良好」と回答しており、本校生徒の服装容儀が乱れているというわけではない。 今後は校則の見直しを進め、指導する際の基準を明確に提示し、それに基づいた生徒観察、生徒理解を推し進めていく等、校内指導体制の整備を図っていく。 |
| | ③ 規則正しい生活習慣と時間を守ることを指導することで、遅刻の減少に努める。特に朝の始業5分前に着席するよう強く指導する。 | 年度内で3回以上遅刻した生徒の数が、 A 40人未満 B 40人以上45人未満 C 45人以上50人未満 D 50人以上 | 月ごとの集計記録を整理して、前年度の年間総合計に基づいて評価する。 | 24名 (7月現在) 判定A | 1学期のみの集計だが、このペースでいけば、D評価となる可能性が高い。遅刻を繰り返す生徒は、生活リズムの乱れ、人間関係や学習上の悩み、心的な要因による体調不良等、様々な理由や実態があるため、生徒一人一人に適した指導を行う必要があり、学年団、教育相談課と連携した組織的対応が求められる。 「いじめ不登校問題対策委員会」等を通して情報を共有し、必要に応じてスクールカウンセラーや外部機関の協力を得ながら対応していく。 |
| | ④ 「いじめ・不登校問題対策委員会」等で生徒情報を共有し、全職員が連携して「いじめ」が根絶されるよう努力する。 | 「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上85%未満 D 80%未満 | 7月、12月に調査する。 (生徒アンケート) | 88.4% 判定B | アンケート調査の結果、いじめがなく安心できる学校であると感じている生徒は全体で88.4%となっている。昨年12月に81.2%だった現3年生は今回90.4%と改善、現2年生は昨年12月 90.9%、今回 90.9%と同等、1年生は 84.8%と最も低い数値となっている。 早期発見・早期対応のため、いじめアンケートだけでなく、いじめ不登校問題対策委員会等で生徒の様子を共有、また生徒チェック用紙をしっかりと活用するなど、日頃から注意深く観察していきたい。また、1年生の数値が最も低くなっていることから、次年度は入学当初に人間関係づくりの活動を導入することを検討していく。 |
| | ⑤ 学校の環境美化に積極的に努め、校舎内外の環境美化も取り組むよう指導する。 | 校舎内外の環境美化にも取り組んでいる生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上85%未満 D 80%未満 | 7月、12月に調査する。 (生徒アンケート) | 78.8% 判定D | アンケート調査の結果、校舎内外の環境美化にも積極的に取り組んでいると回答した生徒は全体で78.8%に留まっており、D判定となった。(学年別：3年91.7%、2年75.8%、1年72.3%) 後期は、前期に3回実施の「鶴高クリーン作戦」を継続指導するとともに、整備委員会による昼休みの放送やポスター掲示により、全校生徒への啓発活動を行うことで、校舎内外の環境美化に努めていく。特に、低調な結果となった1・2年生に対して、重点的に学校生活全般を通じた積極的な声掛けを展開し改善を図っていく。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | <ul style="list-style-type: none"> 遅刻の理由について、生活習慣の乱れや深夜にまで及ぶスマートフォンの長時間使用等以外に、学校生活への漠然とした不安があげられているが、遵法性の指導のみならず不安を取り除く指導にも努めてほしい。 以前、現在の1年生は中学校の入学時にコロナ禍が心に与えた影響や在宅期間中に昼夜逆転の生活で、学校に行けなくなった生徒が何人もいると聞いたことがある。不登校傾向にあった生徒が今春、鶴来高校に入って毎日頑張って登校しており、保護者も喜んでた。今後も不登校生徒への支援体制を継続してほしい。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策 | | <ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒や遅刻者への指導、支援については、規範意識の欠如以外にも、学校自体に魅力を感じていないこと、交友関係の乱れや生活環境が不安定で怠惰傾向にあること、人間関係の悪化、いじめ等の心的な要因とこれにともなう体の変調等、様々な実態や理由があるため、教育相談室、保健室、学年団等と連携を図りながら一人一人に適した指導、支援を基本として、場合によっては臨床心理士、警察署、児童相談所等、外部機関との連携を取ることで、より多面的な指導、支援を図っていく。 | | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 実施状況の達成度判断基準 | 備考 | 7月結果 | 分析(成果と課題)及び今後の取組 |
|---|--|--|----------------------------|------------------|---|
| 2 生徒が安心して学べる授業づくり(授業規律の維持、授業のユニバーサルデザイン化)を推進するとともに、家庭学習時間の確保や読書量の増加を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 | ① 生徒を理解するために年5回の面談週間を設ける。毎月の教育相談委員会で報告される生徒情報を、学年会で共有し、より深く把握できるようにする。担任が掴んだ生徒の進路希望を教科会でも共有し、適切に支援できる能力の向上を目指す。 | 個々や集団に応じた授業を行うために、担任や学年団・教育相談などと生徒情報を相互に共有している教職員の割合が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満 | 7月、12月に調査する。 (教職員アンケート) | 87.5% 判定C | 多くの教員が、担任や学年団等と連携をとり生徒情報を共有して学習指導を展開しており、昨年度同様の数値となっているものの、4段階の最高評価の「達成されている」の割合が、R3同期で60.6%、R4同期で34.6%、そして今年度は25.0%と、年々減少傾向にある。要因として、個々の支援や対応が必要な生徒が増えたため、個に応じた指導をめざしているものの十分な支援や対応に当たれていない現状があることが考えられる。 授業のユニバーサルデザイン以上の対応が求められる生徒については、その支援にあたり将来を見据えた長期的な視点を持つこと、目標の明確化と重点化、定期的な見直し、良い支援や指導方法の蓄積等推し進めると同時に、学年団・教科・部活動顧問間で必要な情報を共有し、より役割を明確したチームで対応する体制の構築、充実に努めていく。 |
| | ② 1人1台端末の利用や話し合い、発表の場面などを取り入れ、生徒が主体的に学習に取り組む力を身に着ける。また、そのための学習の評価の仕方を各教科で検討する。 | 発表や話し合い活動など積極的に授業に参加した答えた生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上75%未満 D 80%未満 | 7月、12月に調査する。 (生徒アンケート) | 77.6% 判定D | 1人1台端末を使う場面は増えてきているが、能動的である。個々の教科ではなく、全体として情報をまとめたり、発表の表現を工夫したりなどのスキルを身に着ける必要がある。発表だけにとどまらず、意見を交わす場面があると、より積極的に取り組めると思われる。 2学期以降は各教科で検討と互観授業の実施を通して、効果的な活用に向けて研究を重ねていく。 |
| | ③ 個に応じた進学指導、就職指導を充実させることにより、自尊感情を育み、希望進路の実現を果たせるよう努力させる。 | 年度末の進学状況において、国公立大学合格者が、 A 5名以上 B 3名 C 1名 D 0名 | 最終進学状況の調査で評価する。 | - | 国公立志望者6名(8月現在)が、授業に加え、補習、個別指導を中心に各自の志望先に合わせた学習を進めている。 チューターの指導で志望理由を確定しつつあり、今後、出願、面接指導へと進めていく予定である。 |
| | ④ 家庭学習調査を行い、その状況を分析し、課題の出し方を適切に工夫したり、担任が面談したりすることで家庭学習の習慣を身につけさせることにつなげる。 | 3月末の就職状況において、就職希望者の内定率が、 A 100% B 95%以上100%未満 C 90%以上95%未満 D 90%未満 | 3月就職状況の調査で評価する。 | - | 求人件数は、製造業を中心にコロナ前と同等レベルに好調である。宿泊・飲食・サービス関連も好調で、売り手市場ではあるが、求人がありすぎて、選択に苦労している者もいる。 就職指導(面接練習や履歴書指導、応募前訪問によるミスマッチの解消等)は例年通りのスケジュールで実施し、順調に仕上がってきていると感じる。 ・学校斡旋就職希望者21名中、8名が3年間の欠席日数が20日を超え、40～50日超の生徒が5名もあり、斡旋先に苦労している。 |
| | ⑤ 情報科、商業科における各種検定・資格取得を推進するとともに、より上級資格取得に向け挑戦する意識付けと対策講座等、指導体制の充実を図る。 | 家庭学習の時間を確保している生徒の割合が、 A 60%以上 B 50%以上60%未満 C 40%以上50%未満 D 40%未満 | 7月、12月に調査する。 (生徒アンケート) | 59.2% 判定B | 特進クラスを中心に、予習・復習や週間課題などを課し、家庭学習の時間を確保するよう指導している。今後も継続していきたい。 普通クラスでも同様に予習・復習を推奨し、毎日朝自習の時間に漢字練習や検定の勉強などを行うことで学習の習慣化と自主性の伸長を図っている。 |
| | ⑥ 学校図書室の取り組みを活性化し、積極的に読書に取り組ませる。朝学習や授業を利用して読書を取り入れ、本に触れる機会として図書室での貸し出しを促す。 | 学年及び各教科が目標とする各種検定資格に対する取得率が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満 ※合格者数/受験者数 | 各種検定の合格状況を調査する。 | 79.2% 判定C | 7月末現在、全商ビジネス計算実務検定1級1名、2級3名、3級17名の合格者を出すことができた。全商ビジネス文書実務検定では、1級1名、2級6名、3級26名の合格者を出すことができた。 これらの検定については2学期にもう一度検定が行われるため、合格者が増加するものと予想される。また、9月、1月には全商情報処理検定、2月には商業経済検定が行われるので、資格取得に対する動機付け、早期段階での準備、進学就職への見通し、個別指導等、指導の充実を図る。 |
| | | | 年度末に集計する。 | - | 7月末現在319冊であり、昨年度の同時期の312冊ほぼ同数である。高校総体の期間中に図書室での利用の時間を導入したが、貸し出し数は伸びていない。 教科や朝学習を通して、図書室に足を運び本を開く機会を今後も増やしていきたい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | ・インターネット等の様々な情報メディアの発達により、読書量の減少、活字離れが進んでいる現状があるが、読書は語彙力、表現力等の国語力やコミュニケーション能力の向上等、読書の効能は大きいことから、活字に触れさせ読書の楽しさを知る機会を増やすべきである。また、インターネットの検索では、断片的な一部の情報を受け取るだけ自分でものを考えずに受動的になりやすいため、なおさら読書をととして自分でものを考える習慣化や、授業では発表や意見交換等の言語活動を充実させコミュニケーション能力を高める取組が必要である。 | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策 | ・1人1台端末の影響もあり、全般的に授業自体もデジタルコンテンツを使つての授業になっている。国語科においても実際に教科書を読むという単元自体が減っており、他教科においても図書室を利用した調べ学習も極端に減っている現状がある。国語科では、短歌や俳句、誌等の公募を利用した取組を展開しており、中には公募で入選や入賞を果たす生徒も出てきており、生徒が自信を付けたり自尊感情が高まることで生徒からも好評を得ている。また、他教科においても、発表やペアやグループ活動の意見交換等、言語活動を積極的に取り入れた授業づくりを推し進めていく。図書室とICT機器のそれぞれの機能や良さを活かした授業の改善と工夫を図ることで、主体的・対話的で深い学びの実現を図っていく。 | | | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 実施状況の達成度判断基準 | 備考 | 7月結果 | 分析(成果と課題)及び今後の取組 |
|---|--|--|-----------------------------------|---|---|
| 3 教育活動の速やかな情報発信と地域社会と連携・共同した活動の推進で、地域や保護者から信頼される学校づくりに努める。 | ① 中学生やその保護者に対して従来のホームページに加え、新たにSNSアカウントを設置・運営し、学校行事や部活動の大会情報、日常の学校生活等をよりタイムリーに公開することで、本校への理解を深め志願者の増加をめざす。 | SNSアカウント（鶴高インスタグラム）の「グッド」数が、平均で A 150件以上 B 130件以上150件未満 C 110件以上130件未満 D 110件未満 | 7月、12月に集計する。 | 平均 145件 判定B | 4月から行事ごとに計10回更新し、平均145件のグッド評価を頂いた。最高値は入学式の175件で、平均値から見て約20%高い数値となっており、全体を通して高い水準を維持している。しかしながら目標値には達していないことや、保護者アンケートの要望欄の記述内容からも、学校行事のみならず日常の学校生活における生徒の様子も伝えるように努めていく。 昨年度の2月以降、フォロワーも214件増加しており、SNSの拡散効果が高いことを鑑み、更なる発信に努めていく。 学校HPの閲覧数も月平均で27,434件と、前年同時期より約8000件も多く、関心の高さが伺える。今後もタイムリーでこまめな更新に努め、生徒たちの生の声や姿を発信していく。 |
| | ② 「総合的な探究の時間」の活動を通して、生徒が興味・関心を持つ分野の課題に気づき、その問題の本質を考え、解決方法の検討等に取り組む学習活動を充実させていく。 | 「総合的な探究の時間」の活動において、積極的に取り組むことができた生徒・教職員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満 | 7月、12月に調査する。 (生徒アンケート) | 生徒:92.0% 判定A | 自らの生き方なり方を考える上で役立つと考える生徒は、3年生は94.4%と高く、1年生は93.8%と、これに次いでいる。 1年生が高い要因として、1学期に大学見学やそれに伴う事前学習、系・科目登録をきっかけに自らの適性や進路を考える機会を持ったことがあげられる。2年生は今後地域探究活動を発展させ予定であり、今後より地域と連携する実感を持つようになると思われる。3年生においても、進路先決定後に地域の課題に向き合う活動を行う予定である。 |
| | ③ 生徒・教職員・保護者が一体となり、手取川歩行や花いっぱい運動を通して、地域のボランティアや小中学校と連携した活動に取り組む、地域とのつながりを深めていく。 | 学校行事や課外活動において、地域のボランティアや小中学校と連携した活動に取り組むことができたと思う生徒・教職員・保護者の割合が、 A 70%以上 B 60%以上70%未満 C 40%以上60%未満 D 40%未満 | 7月、12月に調査する。 (生徒・教職員・保護者アンケート) | 生徒:31.3% 判定D 教職員:73.1% 判定A | 昨年度と比較すると、活動に参加したいと感じている生徒が微増した。1年生が増えたものの、まだまだ低調な数値であるため、参加案内の早期の呼びかけ、活動の意識付け、部活動単位の参加による活動のきっかけづくり等、啓発や指導の工夫と改善を図っていく。一方、教職員の意識は高く、花いっぱい運動では、生徒が地域の公共施設や病院などにプラントを設置する等、積極的に地域と関わる工夫を行い活動を行っている。陸上部では、ほぼ毎年、近隣の中学生を招き実技講習会等を開催しており、この取組を参考に他の部活動にも働きかけ、スポーツや文化を通じた地域連携の取組も充実させていく。 |
| 4 教職員自ら、これまでの働き方を見直し、限られた時間の中で、教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保できるようにする。 | ① 各教職員が自らの勤務時間や業務内容を的確に把握するとともに、毎月の業務の流れの中で先を見通し、区切りを意識した計画的・効率的な遂行に努める。 | 毎月2回設定されている定時退校日を意識し、実行することができた割合が、 A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満 | 7月、12月に調査する。 (教職員アンケート) | 50.0% 判定D | 定時退校日を意識し実行できた職員の割合は50.0%と前年同期比7.7%の増加となった。80時間超過者推移では、4月は3名（同比5名減）、5月は3名（同比1名増）、6月は1名（同比同値）、7月は0名（同比同値）の計7名で（同比5名減）となり、割合でも4.9%減の5.5%となった。月45時間以下の割合では、60.9%（同比16.0%増）と大幅に増加した。 定時退校日に退勤できなかった職員に対して別日に割振日を設定したことで各自の意識改革がより進んだものと判断できるが、まだまだ成果は低い。2学期以降は意識改革への啓発を強化してだけでなく、時短だけでなく職場の人間関係やコミュニケーションの円滑化、業務整理の習慣化等、働きやすさにも着目した取組を追究し、常にリフレッシュした状態で生徒と向き合える環境整備に努めていく。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した活動を積極的に展開していることで、道徳的な心の育つ学校ということが分かるような発信があれば、中学校の保護者等も安心して学ばせたい学校となり、効果的な配信になるのではないか。 ・前期での実績はまだないようだが、昨年度の北辰中、鳥越中で実施した出前授業を、他校でも是非、本校のアピールも含めて実施すべきである。当該中学校の卒業生である生徒たちの姿が、志望校選びの一番のアピール要素となるはずだ。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策 | | <ul style="list-style-type: none"> ・5月に白山手取川ジオパークがユネスコによる世界認定を受け、全国に地域や本校を発信する絶好の機会となるため、地域研究会による地元中学校への出前授業、鶴来商工会の地域振興イベント等、積極的に地域の各種主体と連携・協働体制を拡充していく。 ・タイムリーでこまめな配信を基本方針として、報道機関やHP、インスタグラム、『鶴高通信』を通じて、本校の魅力や特色を中学生やその保護者にアピールしていく取組を継続していく。特に、インスタグラムでは、より見てもらえるようなハッシュタグの活用、投稿時間帯の変更等、発信方法の改善を図り、多くのリーチ数の増加をめざしていく。 | | | |